

科目名	コンピュータと情報1（卒業必修：幼稚園教諭二種必修）		
授業形態	講義	学年	1
開講時期	2023年度 前期	単位数	1
担当教員	高田 正哉		
内容および計画	<p>GIGA スクール構想等、教育実践における ICT の利用はますます重要となっている。幼児教育においてもまた、コンピュータ等の ICT の利用が求められるようになってきている。本講義では、ICT の基本であるコンピュータの利用法やソフトの活用法等を学ぶ。そのことを学ぶことを通して、教育実践、あるいは社会生活一般における ICT の利用の基礎的な理解と技能を習得することを目指す。</p> <p>具体的には、①コンピュータの基本的な知識、②Google Workplace のアプリケーションとその利用法、③文書作成、プレゼンテーション作成等、幼児教育の実践（実習含む）で利用するソフトの基本的な知識と操作の3つを理解する。</p>		
1	<p>ガイダンス：コンピュータの基礎知識</p> <p>Windows の基本的操作、具体的には起動と終了、ソフト（アプリケーション）の紹介を主に学ぶ。コンピュータの操作法は、スマートフォンとは異なる部分がある。コンピュータ利用における基本的な操作法を学び、個々人がコンピュータを起動し、ソフトを利用し、終了するまでの操作をできるようにすることを目指す。</p>		
2	<p>Google Workplace の利用</p> <p>本学では、Google LLC が開発する"Google Workplace"を学修のプラットフォームとして利用している。Google Workplace は福島県教育委員会はじめ、多くの自治体・企業で利用されているプラットフォームである。本講義では、Google Workplace の基本的なアプリケーションの利用について学ぶ。具体的には、Google Workplace にある Gmail、Google Classroom などのアプリケーションの利用法を理解し、実際に操作できるようにすることを目指す。</p>		
3	<p>インターネットの利用と応用</p> <p>短期大学の学修において、レポートの提出やプレゼンテーションの作成は欠かせないものである。これらを遂行するために、多くの学生はインターネットを利用する。本講義では、インターネットの利用の基本的な知識、およびインターネット上の情報を利用する上での情報倫理等を学ぶ。このことを通して、適切な情報の利用法を身につける。</p>		
4	<p>データ共有の基本と演習</p> <p>教育実践、教職員の情報共有において、データ共有は欠かせない機能となっている。本講義では、Google Drive の機能を中心に、文書作成・プレゼンテーション作成等でも利用できる共有機能について学ぶ。このことで、実際に他の人と共有しながら作業するための技能を身につける。</p>		
5	<p>文書作成ソフトの利活用</p> <p>レポートの提出、指導案の作成、または職場内の文書作成において、Microsoft Word、Google Workplace Document の利用は欠かせないものである。本講義では、文書作成ソフトの基本的な利用法を学ぶ。このことで、文書作成を実際に行う技能を身につけることを目指す。</p>		
6	<p>文書作成 演習</p> <p>本講義では、第5回「文書作成ソフトの利活用」を踏まえて、文書作成を実際に演習する。具体的には、指導案作成を実際に行い、提出することまでを行う。このことで、実際に文書作成をする技能を身につける。</p>		
7	<p>プレゼンテーション作成ソフトの利活用</p> <p>プレゼンテーション作成ソフトは、教育実践においても多く用いられるソフトである。本講義では、プレゼンテーション作成ソフトの基本的な知識を学ぶ。このことで、実際にプレゼンテーションを作成するための基本的な技能を身につける。</p>		
8	<p>プレゼンテーション作成 演習</p> <p>本講義では、第7回「プレゼンテーション作成ソフトの利活用」を踏まえて、自らプレゼンテーションを作成する。具体的には、講義内で与えられたプレゼンテーションを、グループで作成することである。本講義では、第4回「データ共有の基本と演習」の内容も踏まえて、共同作業でプレゼンテーションを作成する。</p>		
9			
10			
11			
12			
13			

14	
15	
教科書	
タイトル	著者名
出版社	ISBN
発行年	
本講義では、特定の教科書を用いないものの、高等学校「情報」の教科書やノートを事前に閲覧することを推奨する。	
参考書	教育あるある探検隊 『学校 ICT サポートブック』 学事出版、2021 年。 情報ネットワーク教育活用研究協議会監修、ICT 支援員編集委員会編 『学校の ICT 活用・GIGA スクール構想を支える ICT 支援員』 日本標準、2021 年。
成績評価	
評価方法	割合(%)
講義中の課題実施及び提出状況とその内容	30
中間レポート	30
期末レポート	40
学習到達目標	教育実践における ICT の利活用にあたってのコンピュータの基本的な動作を身につける。本講義では、主に子ども・利用者間、子ども・利用者と教師が関わる環境づくりの基礎的なスキルを身につけることが念頭に置かれている。そのため、本講義では、基本的なツールの理解と、文書作成・プレゼンテーション作成などを操作する技術を学び、教育／保育／福祉の実践における ICT 機器の利活用の基礎力を養成する。
先修条件	入学後のコンピュータガイダンスにおいて、基本的な環境設定が指示されるので、各自で設定の方法を理解し、完了させること。わからないことがある場合は、本講義の担当教員、あるいはコンピュータ委員の教員に事前に質問すること。
実務経験	福島県内の教育委員会における ICT 支援業務
その他	本講義は、就職後の幼児教育実践における基本的な知識・技能を身につけることを目指している。本学では、主に Windows OS を利用しているが、学生のみなさんが就職する自治体・園・施設によっては、異なるシステムを採用していることもある。それゆえ、本講義で取り扱う知識・技能は、共通のものではない。ただ、本講義では、皆さんが講義で身につけた知識・技能を基礎として、各自の就労先で応用して利用できるようになることを目指している。本講義で ICT に興味が出た学生は、ぜひ将来のキャリアにおける ICT のあり方を自ら調べ、自学自習することを推奨する。